

令和元年度 上田市立長小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価				
かしこく きよく たくましく	「知」「徳」「体」の調和のとれたたくましい子ども ◎「かしこく」 自分をふりかえり よく考える子(知) ◎「きよく」 友だちとかかわり 思いやりのある子(徳) ◎「たくましく」 すすんで取り組む ねばり強い子(体)	・「よく考える」を全職員が意識して、学習・児童会活動・学校行事等に取り組むことができた。目的意識を持ち計画を立て実行し、振り返るという流れが各学年に見られるようになった。その中で、学校に来ることを楽しみにしている児童の姿が多くみられるようになった。 ・さらに、自分の力で考え、粘り強く取り組む児童、相手意識に立って考える児童の育成を図っていく。				
	今年度の重点目標 ⇒ 月目標の設定	成果と課題 A B C D 改善策・向上策				
	①よく考える子ども ②相手に伝える力の育成 4.5月 運動会へ向けて 友だちと一緒に 心と体を鍛えよう。<明るい挨拶 健康な体> 6.7月 学校やプールを綺麗にして 進んで学習へ取り組もう。<無言で清掃 進んで学習> 8.9.10月 音楽会へ向けて 友だちと心と声を合わせよう。 <みんなの心を一つに> 11.12月 周りの人へ やさしい気持ちを届けよう。 <やさしさを 伝え合う> 1.2.3月 学習のまとめをし、新しい学年へ向かって行こう。 <進んで学習へ取り組む>	・行事に伴う月目標を設定したことで、具体的な児童の姿を想定でき、指導の視点を明確にして取り組むことができた。 ・行事に合わせた目標ということが、逆に徹底できない面もあった。進んで挨拶をする児童を目指す環境を考えていく。				

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	意欲を持てる授業	自然・ひと・ものと関わり、問題解決をしていく授業づくり	授業改善：自己課題を明確にし、改善案を作成しているか。	学期ごとに授業評価アンケートを実施し、課題を明確にした授業や教材研究に力を入れることができた。		○			一人一公開を行い、互いの授業を見合い学び合う体制を整えていく。
			言語活動の充実：自分の考えを自分の言葉で伝える場面をつくっているか。	一時間の授業の中で、ペア、グループと形態の工夫をしながら発表の場の設定を意識することができたが、学級間の取り組みの差がある。		○			安心して考えを伝えあえる学級づくり、考えを伝える場の工夫について研究を継続していく。
			課題把握場面の充実：児童が見通しをもって授業に取り組めるような工夫をしているか。	タイマーの使用、授業のパターン化、黒板に授業の流れを示す等工夫することができた。児童に見通しを持たせることを意識することができた。	○				授業の見通しとともに、課題解決場面やグループ活動等授業の一つ一つの活動についても見通しを持った授業づくりを意識していく。
	認め合う学級	自尊感情を育て、自分の存在が認められる学級づくり	一人一人の自信(自尊感情)につながる振り返りの場を設定し、継続しているか。	振り返りの時間を確保し、児童の頑張りの良さを位置付けたが、振り返りの時間がマンネリ化し他部分もあり、工夫が必要だった。	○				一時間の授業の中や帰りの会での振り返りを継続し、一人ひとりに充足感を味合わせる。
			友だちとの協働を生み出す活動を設定する～長っ子タイムの充実～に取り組んでいるか。	各学級が、児童主体、友達との関わりを大切に活動を展開することができた。長っ子タイムを楽しみに登校する児童の姿が見られた。	○				児童主体となる活動展開できるように、さらに、地域素材や人材を探し、長っ子タイムの充実を図る。
			子どもと対話し、子どもの様子を的確につかむために教育相談を学期に1回行っているか。	毎学期に仲よしアンケートを実施し、必要に応じて面談を行った。担任だけでなく担任以外の職員とも面談する機会を取り、全職員で児童を見守る体制が職員から挨拶、学級や児童会を中心とする挨拶活動に取り組む、挨拶への意識は高まった。また、進んで挨拶する児童は少ない。	○				短時間でもできる相談用紙を工夫したり、柔軟な児童の様子を把握できる体制をさらに考えていく。
開かれた学校	学年を越えた関わりや地域との関わりを広げる学校づくり	家庭・学校・地域へ広がる あいさつ活動を進めているか。	児童会主催の仲よし学級での活動や仲よし給食など、長小学校ならではの活動を仕組み、学年を越えて遊ぶ姿が見られた。	○				児童会を中心として、挨拶への意識をさらに高め、進んで挨拶したり地域の方に挨拶する意識を高めていく。	
		学年を越えて関わりあう活動に取り組む工夫をしているか。	NPOや地域の方の協力をいただきながら、学級独自の学習や活動を展開することができ、充実した活動となった。	○				縦割り活動を学校生活の様々なところ(清掃・朝の活動等)で設定できないか、具体的に検討していく。	
		長の自然・歴史(真田)・文化・伝統に学ぶ体験活動や交流活動を取り入れているか。	学校・学年便りや人権同和教育だよりを定期的に発行し、こまめに情報を発信することができた。早め早めに関心メールを配信し活用することができた。	○				ふれあい伝承広場、地域講師によるクラブ活動を継続していく。地域コーディネーターと連絡を取り合い、地域講師人材確保に努める。	
学校運営	情報の発信	学校だより、学年だより、ホームページ、学校メール等で、学校の様子を知らせているか。	児童のよい姿や様子についても、家庭とこまめに連絡を取り合い、家庭と連携ができ、信頼を築くことができた。	○				情報発信内容について精査し、児童の姿や学校の様子がわかるようにお便りの充実を図っていく。	
		家庭との連携	連絡帳、電話連絡、訪問などで家庭との連絡を密にしているか。	学級懇談会で手引きについて説明をしながら取り組んだが、一人一人に応じた家庭学習にならない面があった。	○				迅速な連絡と誠意ある対応を心がけ、ともに児童の育ちを共有する態度で家庭との関係を築いていくように努める。
			手引きを基に家庭学習の習慣化を図っているか。	職員会議後に非違行為研修を位置付けグループ討議を中心にして定期的実施することができた。	○				一人一人に応じた家庭学習のあり方と自主学習への取り組みを検討し、取り組み方を明確らし、家庭への協力をお願いしていく。
危機管理	学校メールを活用したり見守り隊と協力したりしながら、児童の安全・安心を確保しているか。非違行為研修に取り組んでいるか。		○				児童の安全確保のため、マニュアルの見直しをしていく。また、非違行為研修を位置付け教職員としての意識の向上を目指す。		

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった